

組合からの“発信”

協同組合副理事長からのメッセージとして、
第2回は「長寿企業を目指して」と題して、
浅野敏行副理事長(株式会社アサノ 代表取締役社長)からメッセージをいただきました。

「長寿企業を目指して」

浅野 敏行副理事長(株式会社アサノ 代表取締役社長)

昨年弊社はお蔭様で創業百周年を迎えることができました。11月30日の株式会社設立記念日に催しました「感謝の夕べ」の小宴には、当協同組合からも理事の方々をはじめとして多数のご参加を賜り、あらためて感謝申し上げます。

創業者が三十代で急逝したこと、戦前進出した樺太での造材、製材事業、及びフィリピンからの原木輸入事業がともに敗戦により財産没収、撤退を余儀なくされたこと、2次にわたるオイルショックで昭和40年代末から50年代半ばにかけ木材業界大不況を経験したこと、後継者が飛行機事故に遭遇し突然命を奪われたこと等々、長い歴史の中で幾多の困難を乗り越えて百年の節目を迎えられましたことは、お取引先をはじめとする多くの方々のご支援のたまもの以外の何ものでもなく、また多くの幸運に恵まれたお蔭であると感謝いたしております。

今年の4月から日経新聞で、「200年企業 成長と持続の条件」という連載が続けられています。日本には世界最多の3,113社があり、木材に関連したところでは、皆さんもよくご存知の寺社建築の金剛組があります。西暦578年に四天王寺建立のため百済から招かれた大工のひとり、金剛重光を始祖とする日本最古の会社です。残念ながら平成18年1月に高松建設の傘下に入り、1428年続いた同属経営には終止符が打たれましたが、平成19年3月期の決算で黒字転換を果たしました。

江戸後期の1801年に清水港(静岡市)の港湾物流で創業した鈴与という会社が連載のトップで取り上げられています。弊社はこのシステム開発の子会社にお世話になっていますが、港湾物流と

システム開発、どこで結びつくのでしょうか。来春の静岡空港開港に合わせて地方空港を結ぶ航空事業に参入する計画で、すでに70人乗りの小型ジェット機を2機発注したとあります。社内の慎重論を押し切ったのは八代目の鈴木与平社長で、200年の歩みは事業を「壊して創る」歴史だったと言います。明治28年からの石炭販売は石油の時代が来るや撤退。戦後始めた合板製造は海外との価格競争で撤退。石油販売もガソリン車の時代は10年以内に終わると見てハイブリッド車をにらんだ次の一手を模索するといった具合です。200年続く鈴与は、先祖代々の事業を地道に続けているのではなく、むしろ環境の変化に対応しリスクをとりながら革新に挑んできたことがわかります。システム開発事業への参入もこの脈絡の中で理解できるわけです。「壊して創る」。リスクを恐れず革新を続けることが企業永続のカギを握っていると言えそうです。



CONTENTS

- 組合からの“発信”……………P1
- 特集「大阪木材工場団地(協)2008中期ビジョン」…P2~5
- 組合からの情報発信基地……………P6~8
- 組合員企業の紹介……………P9~10
- こだわりスポット・みはらトピックス……………P11
- SPACE DESIGNER……………P12
- 毎日の健康な暮らし……………P13
- パソコンなんて…今時事情……………P14

特集

『大阪木材工場団地(協)2008中期ビジョン』

～来る50周年を目指して～

当協同組合では、内外の大きな時代の変化の中で、これまでの事業及び委員会活動の見直しと今後の協同組合の進むべき指針を定めるために、組合員企業全社のご理解とご協力のもと、「中期ビジョン」を策定いたしました。

『大阪木材工場団地(協)2008中期ビジョン』の概要

【2008中期ビジョン策定の経過】

当協同組合は昭和37年設立以来、46年が経過し、この間、幾多の大きな変化も組合員各社の団結と協力によって乗り越え、適合した工場団地として発展してきました。

当団地の発展の節目には、時代を見据えた協同組合の指針となるビジョンの存在があり、前回のビジョンの策定は平成7年3月にさかのぼり、このときのビジョンは、『21世紀型快適団地の創造をめざして～組合員の夢とロマンを実現する～』と題し、教育研修の推進、情報提供の充実、共同駐車場の設置など、現在の組合の活動基盤の強化に寄与する、重要な事業が計画され、また着々と実現してきました。

しかしながら、前回のビジョンの策定から13年余りが経過し、当団地の内外を取り巻く環境も大きく変わり、この間、日本経済は長期にわたる景気の低迷に直面し、また、新たに原油をはじめとする資材の高騰、少子高齢化社会の進展など、新たな課題も生じております。

一方、当団地の周辺環境をみると、地元美原町と堺市の合併と堺市の政令指定都市移行、堺市臨海部における新たな産業集積

の形成など、大きな変化もはじまり、さらに団地内では、木材単一業種としてスタートした当協同組合の組合員業種構成も非木材業種が増加するなど、時代の変化とともに大きく様変わりしてきていることもあり、今回、「中期ビジョン策定プロジェクト委員会」を立ち上げ、現状の大変化の時代に対応するため、また3年余りに迫った組合創立50周年までに実施すべき事業や委員会の円滑な運営をはかり継続性を備えた協同組合並びに工場団地運営の指針を定めることを目的とした「中期ビジョン」の策定を進めてきました。

今回のビジョン策定には、大きく2つの目的があり、一つは「当協同組合が直面する3つの課題への対応方針を示す」ことで、3つの課題とは、①組合員の業種資格・定款のあり方、②改組した委員会活動の評価と課題の抽出、③新たな事業用地の再開発です。

またもう一つの目的は、「組合の将来方向を模索する」ことでした。この2つの目的を満たす手法として、本年2月～4月にかけて全組合員を対象とした個別ヒアリング調査およびアンケート調査を実施し、本ビジョンはこうした組合員の声を最大限生かすかたちでとりまとめを行っています。

こういった取り組みによりまとめられ発表された本ビジョンの概要は、次ページの要約フローのとおりです。